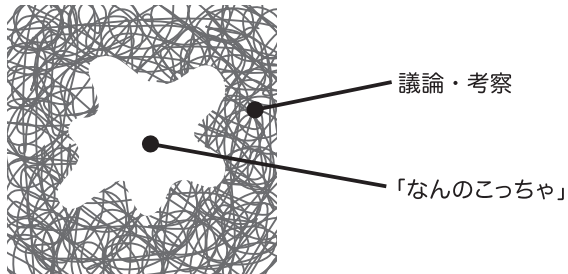
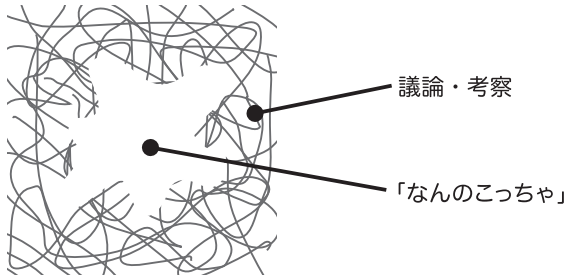


第2土曜会「なんのこっちゃ」

「なんのこっちゃ」→ 本日の討議 → 新しい「なんのこっちゃ」へ
(余談、余談、余談…)

余白

余白部分を議論 肝心な部分が徐々に浮かび上がる



言葉

言葉のスピード（常に遅れる）
言葉が表現できることの限界
言葉をあやつる能力の限界
言葉を理解する能力の限界

ふくらむ沈黙

言葉の背後にかくれているもの

道

茶道、華道、武道（武術）など

芭蕉も利休も「取り説」は残していない

言語化できない精神性
つまり神髄（心髄、真髄）というものがある

くり返すことで「道」となる

= 形式・型ができる

だれもがその道をたどればよい という状況

特殊が一般になる 広く普及する 商売になる

= 大衆による勘違い 神髄が軽んじられる

精神



形式



伝統・慣習

前衛について



浮きあがる瞬間が、前衛
一回性のもの

不易流行（松尾芭蕉）

ものの見方と表現の態度

不易 世界（すべての自然）や人生を深く知る、真実探求の精神
によって芸術作品に吹きこまれる「永遠」・不変のこと

流行 真実探求の精神が本物であればあるほど、
ものを見る目もその表現方法も
新しい境地に向かって変化し続ける

不易を欠けば、真実性が失われて空疎になる
流行を欠けば、停滞に陥って陳腐化する
一見相反するこの2つがツねにからみ合ってこそ

共感・腑に落ちる

ニューロンたちが同時に発火すれば あり得る？

ペアダンスの例

相手の動きを感知してから動くのでは遅い

同時に反応している

日本人の良さ

曖昧さ 意をくむ 無分類・無分節

マイケル・サンデル「コミュニタリアニズム」

話し合いと共感はくりかえされるもの